



甲斐市立玉幡小学校 学校だより 第26号

# チーム玉幡

令和3年2月22日

学校長 丸茂和也

## ♪「ありがとう」を言い続けると・・・♪

今年度児童会の取り組みである「玉小ツリー」ですが、3学期は1学期と同じく「ありがとう」と感じたことを書いてツリーに掲示して、その内容を昼の放送でも紹介しています。2月22日現在で温かな黄色い88枚の葉がツリーに飾られています。その一部を載せます。

〇〇さんへ

いつもクラスのふんいきをもりあげてくれてありがとう。6年〇〇より

〇〇さんへ

ぼくがけしゴムやえんぴつを落としたとき毎日取ってくれてありがとう。

5年〇〇より

調理員さんへ

毎日朝早くからおいしい給食を作ってくださいありがとうございます。6年〇〇より

〇〇先生へ

いつもおべんきょうをおしえてくれたりして、ありがとうございます。1年〇〇より

〇〇さんへ

いつもなかよくあそんでくれてありがとう。これからもあそぼうね。4年〇〇より

〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんへ

3がっきの学級いんになんてくれてありがとうございます。これからもがんばってください。

3年〇〇より

1年〇〇さんへ

集団登校の時に、歩くのが大変だけど、一生けんめい毎日歩いてくれてありがとう。

6年〇〇より

〇〇さんへ

なわとびれんしゅうをしているとき「うまいね」とほめてくれてありがとう。2年〇〇より

〇〇さんへ

ぼくが一人でいたときに、ゲームにさそってくれてありがとう。

6年〇〇より



日々校内で聞かれる「ありがとう」に気持ちを温かくしています。先日目にした本の中で、幸せになるために大切なことは2つある。それは「笑顔」でいること、「ありがとう」をたくさん言うことと書いてありました。また「ありがとう」に関するこんな内容を目にしました。

あなたは「ありがとう」の反対語を知っていますか！？

ありがとうの反対語など 今まで考えたこともなかった。

教えてもらった答えは・・・

「あたりまえ」

「ありがとう」は漢字で書くと「有難う」「有難（ありがた）し」という意味だ。

あることがむずかしい、まれである。めったにない事にめぐりあう。

すなわち、奇跡ということだ。

奇跡の反対は、「当然」とか「当たり前」

我々は、毎日起こる出来事を、当たり前だと思って過ごしている。

歩けるのが、あたりまえ。目が見え、耳が聞こえるのが、あたりまえ。

手足が動くのが、あたりまえ。毎朝目覚めるのが、あたりまえ。

食事ができるのが、あたりまえ。息ができるのが、あたりまえ。

友達といつも会えるのが、あたりまえ。太陽が毎朝昇るのが、あたりまえ。

うまれてきたのが、あたりまえ。家族が毎日帰ってくるのが、あたりまえ。

そして…

生きているのが、あたりまえ。



また、ある夫婦の話もしてくれた。

晩酌の時、いつも無口の夫が、「ちょっと、お酌してくれないか？」と珍しく妻に言った。

台所の片付けをしていた妻は、「今、忙しいから自分でやって」と答えた。

夫は少し寂しそうだったが、手酌で酒をついだ。

その、2～3時間後、夫は急に倒れ、救急車で病院に運ばれ、帰らぬ人となってしまった。

それから、妻は、何故あの時、夫にお酌をしてあげなかったのかと、ずっと悔やんだという。

あの時何故、もっと、優しい言葉で、こぼれるような笑顔で、感謝の言葉で、

接することができなかったのか…

誰しも、今日と同じ日が明日も繰り返されると思う。

今日、誰かと出逢い、話し、笑い、食事をして、仕事ができる。

こんな当たり前だと思うことが、本当は奇跡の連続なのだ。



「有ること難し」

生きて、出逢う、という奇跡の連続に、「ありがとう」を言わずにいられない。

4月から現在までをふり返ってみると、「今までの当たり前は、本当は有難いこと」ということをより深く感じる一年となりました。今日も朝から子供たちの元気なあいさつ、先生や仲間といっしょに学習や行事の練習等に取り組んでいる様子、こぼれるような笑顔をたくさん見せてもらいました。

コロナ禍の中大変なことがたくさんありました。しかし「絆」などみんなで大切にしていきたいことも改めて分かったように思います。

少しずつ感染症収束に、希望の光が見え始めてきました。改めて「ありがとう」をたくさん感じて伝え合う、「笑顔」でみんなが生きていける玉幡小でありたい、そんな思いを感じているところです。

